

白穂使し山丸坂お取所ん後承今般世可い方
之穂おりり積らば元自穂と交出まり七部
以名流く業しそらたて女立の像く丑翌利加
船と元出の測量と交し之の書而和解為ら得
お達り事

八月十日

○ 書政三年九月伊勢守殿の渡

神田明神宗祀の結田山田曲輪内より出たる及ん
お是近く延多終物なりし市中に之をたけり後ハ
勝直承りし事なり
おと直寺社よりお達り方なるを言ひしおのわ
下り達り

八月

○ 田のり

神田明神神喜の儀も神田格のりより大直言近相
派往より通す事と成り神無禮候と云ふり列人
朝出格別右省お取所ん後承今般世可い方